

地域研究委員会・環境学委員会・地球惑星科学委員会合同
地球環境変化の人的側面 (HD) 分科会 (第24期・第10回)
議事要旨

1. 日時：令和2年2月18日(火) 13:30~15:30
2. 会場：日本学術会議5-A(1) 会議室
3. 出席者：氷見山幸夫(委員長)、阿部健一、石川義孝、岡本耕平、近藤昭彦、櫻井武司、篠田雅人、春山成子、吉田謙太郎
(欠席：亀山康子、城山英明、中村桂子、山口しのぶ、山田高敬)
4. 配布資料
資料1 『学術会議叢書』及び『日学新書』の出版について、
資料2 出版物目次案1
資料3 出版物目次案2
5. 議事
 - (1) HDに関する国際的・国内的動向について
 - ・日本学術会議会長が地球温暖化について最近談話を出した。IAP (Inter Academy Partnership) も声明の発出を予定しており日本学術会議の積極的貢献が望まれている(春山委員)。HD分科会としても協力を検討すべき。
 - ・名古屋大学と岐阜大学が共同で「フューチャー・アース」シンポジウムを開催した。テーマは「木曾三川流域圏の未来」で、約140名が参加した。22件のポスター発表があり、そのうち5件は高校生の発表だった(岡本委員および篠田委員)。
 - ・KLaSiCa小委員会は、今夏、日本科学未来館と総合地球環境学研究所と共催で、国連環境ポスターコンテスト応募作品を使ったワークショップ、ならびに高校生を対象としたSDGsに関わるワークショップを企画・検討中である(阿部委員、KLaSiCa小委員会)。HD分科会として全面的に協力することになった。
 - (2) 出版計画について
 - ・氷見山委員長より、HD分科会の活動を日本で広く知ってもらうために、日本語による一般向けの普及本を出版することが提案され、承認された。ただしそれが困難な場合、「学術の動向」に特集を組むこともありうる。
 - ・分科会の委員で分担執筆すれば一人当たり平均して10数頁である。売りやすいので新書が望ましい。学術会議の日学新書でも別の出版社の新書でもよいが、著者が80万円くらい負担する必要がある。その費用をどうするかが課題である。
 - ・執筆者は資料3の目次案にある執筆予定者のうち現在本分科会の委員である氷見山、櫻井、阿部、吉田、岡本、春山、亀山、山口、石川、篠田、近藤、中村の各委員とする。執筆者は次回分科会までに粗原稿を準備することとした。
 - ・最終的な出版形態は次回の分科会で詰めることとした。
 - (3) JpGU-AGU Joint Meeting 2020のHDセッション“Implementing Integrated Research for Sustainable Future – a human geoscience perspective”について
 - ・応募の締め切りは本日(2020年2月18日)の17時である。まだの人はぜひ応募してほしい(氷見山)。
 - ・自然科学(ハードな観測)と人文社会科学の連携がまだ不十分なので、HDセッションは連携の推

進を目的としている（氷見山）。

(4) 今後の活動方針について

- ・FE 教育人材育成分科会との連携を強化することとした。
- ・5月に分科会を開催して、シンポジウムおよび書籍の企画について検討する。任期が終わる9月に最後のシンポジウムを開催して書籍の企画にコメントをもらう。日程案は以下の通り。
- ・次回分科会：第一案5月14日（木）14時～16時、第二案5月12日（火）14時～16時
- ・シンポジウム：9月8日（火）の午後、予備9月10日（木）の午後